

ガイドラインの改定方針（案）

令和8年8月24日

01

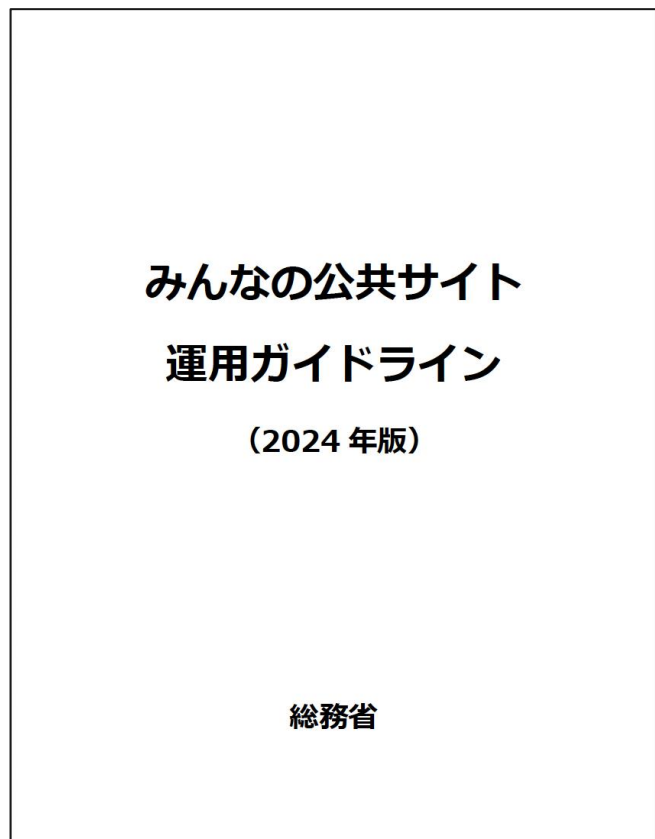
形式について

PDF版に加えてHTML版でも提供を予定

従来のPDF版のみの形式から、PDF版とHTML版での提供への変更。

また、PCやブラウザ上での見え方を重視した、横型へのレイアウトに変更します。

現行の総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2024年版）」



改定後のPDF版表紙イメージ



改定後に追加を予定しているHTML版（PC版）



同スマートフォン版



注：上記のデザイン案は初案でのイメージとなります。
今後構成員や監修者との協議を経て変更となる可能性があります。

02 全体構成について

必要な情報に最短でたどり着くガイドラインへ

現行の蓄積を生かしながら、実務担当者の使いやすさを考慮し、調達・運用・改善など実業務に即して「誰が・いつ・何をするか」が参照しやすい全体構成に見直しを行います。

あわせて、関連情報として掲載していた用語集等の情報をHTML版に集約。

一部の詳細情報をデジタル庁のガイドラインをはじめとした外部リソースへ委ねる等の対応を行い、本文そのものを省ページ化します。

現状の課題

1. 読む箇所を見つけにくい

情報量が多く、担当者ごとに必要な章・節が分かりにくい。

2. 本文が長くなりやすい

規格・技術・実装の詳細まで本文が抱え、ページ数が増え続ける。

3. 更新に時間がかかる

PDF中心のため、外部リンク・事例・制度動向の部分更新が難しい。

改定で実現すること

1. 役割別ナビゲーション

「誰が・いつ・何をするか」を起点に章を再編し、読む箇所を絞る。

2. 本文の省ページ化

詳細はデジタル庁等の公的リソースへ委ね、本文は判断に必要な要点だけを残す。

3. PDF+HTMLの二層運用

安定した要点はPDFにも残し、変わりやすい情報はHTMLで更新しやすくする。

変わらないこと：ウェブアクセシビリティ確保の基本的な考え方、JISへの対応と試験結果の公開、組織的・継続的に取り組む姿勢は、これまでどおりです。

現行ガイドラインの実務的な記載も、廃止せず「流用・要約・再配置」して活用する予定です。

自分の役割を確かめ、担当する部分だけを読む

共通の入口と要求事項を先に確認し、その後は役割別の実務へ。試験・改善は関係者が共通して確認する構成とします。

※章立て・章名は検討中の案です。

入口 序章 本ガイドラインの目的・使い方

共通 第1章 公的機関に求める取組

前提 第2章 なぜ取組む必要があるのか

役割別に読む

統括・方針

第3章
取組方針と対応計画を立てる
第4章
予算と体制を確保する

更新・制作

第5章
実務（制作・検収）について
理解する

発注・調達・検収

第6章
外部委託先に依頼する

共通確認

第7章 試験を行い、結果を公開する/ 第8章 継続的に見直す

必要に応じて
参照

付録A
受託事業者へ求めること

付録B
デジタル庁資料との対応表

付録C
障害者・高齢者のお困りごと

付録D
参考情報

改訂ガイドライン章立て案 1/2

序章 本ガイドラインの目的・使い方

- 序.1本ガイドラインの目的
- 序.2想定読者と役割別早見表
- 序.3デジタル庁などの資料との使い分けについて

第1章 公的機関に求める取組

- 1.1公的機関に求める取組
～取組の対象範囲、ゴール、期限～
- 1.2ウェブアクセシビリティ確保・維持・向上のための5つの柱
- 1.3取組の評価
- 1.4具体的なプロセス

第2章 なぜ取組む必要があるのか

- 2.1ウェブアクセシビリティとは
- 2.2ウェブアクセシビリティの必要性
- 2.3多様な利用者像の理解
- 2.4公的機関における合理的配慮
- 2.5JIS X 8341-3:2016の位置づけと改正の見通し

第3章 取組方針と対応計画を立てる

- 3.1自団体の取組方針を決める
- 3.2対応計画を立てる
- 3.3ウェブアクセシビリティ方針を作成・公開する

第4章 予算と体制を確保する

- 4.1団体トップに求められる責務を知る
- 4.2現場担当者に求められる責務を知る
- 4.3推進体制を整える
- 4.4予算を確保する
- 4.5自団体用ガイドラインを作り、周知する
- 4.6職員研修を行う

第5章 実務（制作・検収）について理解する

- 5.1制作フローを理解する
- 5.2公開前チェックを行う
- 5.3コンテンツ種別ごとの留意点を知る
～PDF、動画、SNSなど～

第6章 外部委託先に依頼する

- 6.1調達方針を整理する
- 6.2要件定義をし、仕様書を作る
- 6.3納品物の確認をする

第7章 試験を行い、結果を公開する

- 7.1JIS試験とは
- 7.2JIS試験を行う
- 7.3JIS試験の結果を公開する
- 7.4自団体の取組成熟度を評価し、公表する
- 7.5不適切な取組を改善する

第8章 継続的に見直す

- 8.1継続的な見直し・改善の流れ
- 8.2ウェブアクセシビリティ方針の見直しタイミングを知る
- 8.3ウェブアクセシビリティ方針を再設定する

改訂ガイドライン章立て案 1/2

付録A 受託事業者へ求めること

- A.2 納品物一覧
- A.3 報告・エビデンス提出ルール

付録B デジタル庁資料との対応表

- B デジタル庁資料との対応表

付録C 障害者・高齢者のお困りごと

- C 障害者・高齢者のお困りごととは

付録D 参考情報

- D.1 頻出用語集
- D.2 JIS X 8341-3関連文書
- D.3 ウェブアクセシビリティ評価ツールの紹介
- D.4 ウェブアクセシビリティへの理解を深める方法
- D.5 点字図書館・聴覚障害者情報提供施設一覧
- D.6 改定研究会について
- D.7 よくある質問（FAQ）
- D.8 ウェブアクセシビリティ対応事例集

03. 表現について

表現（言葉まわり）の考え方について

現行のガイダンスにおいて、主な利用者である現場担当者が内容を理解しにくいという課題点がありました。そのため、今回の改訂では、「プレインランゲージ」の日本語版「プレインジャパニーズ」における9つのライティング指針を参考にしながら、わかりやすさ・取り組みやすさを重視した表現を目指します。また、デジタル庁が発行する各種資料（ウェブアクセシビリティ導入ガイドブックなど）との連携も考慮いたします。

参考：「プレインランゲージ」とは

情報の受け手が「必要な情報を容易に見つけ、理解し、使用できる」ことを実現するためのコミュニケーション様式。
2023年、国際標準化機構によって、ISO規格としてISO 24495-1が発行されています。

「プレインランゲージ」を構成する4つの主導原則

- ①relevant（関連性）：読者が必要とする情報が含まれている。
- ②findable（発見可能性）：必要な情報をすぐに見つけられる構造になっている。
- ③understandable（理解しやすさ）：読者が容易に理解できる表現である。
- ④usable（実用性）：情報をもとに、読者が実際に行動や判断を起こせる。



参考：「プレインジャパニーズ」における、9つのライティング指針

- ①読み手を明確にする：本件の場合、現場担当者を主たる読者に設定。
- ②結論を文頭に置く：結論または一番重要なポイントを先に述べたうえで、理由や経緯を記載する。斜め読みでも概要把握できるように。
- ③読みやすい構成にする：複雑な文章になる場合、箇条書きや表形式などを用いることで、読みやすくする。
- ④文は短くする：1文50文字以内を目指し、それより長くなる場合はできるだけ2文にわけると。
- ⑤日常的な単語や表現を使う：難解な単語や表現を避け、高校生でも理解できる文章にする。
- ⑥簡潔な表現を使う：回りくどい表現やあいまいな表現を避け、読み手を混乱させないようにする。
- ⑦能動態を使う：回りくどく、行為への責任の所在が感じられない受動態をできるだけ避ける。
- ⑧肯定表現を使う：文の意味をより速く、わかりやすく伝えるため、できるだけ肯定表現を使う。
- ⑨主語、述語を近づける：スムーズな理解を促すため、主語と述語はできるだけ近づける。状況に応じて、箇条書きや表形式などの活用も検討。

04. ビジュアルデザインに ついて

誰が見ても、迷わない「開かれたデザイン」へ

1. 初めての人を後押しする、直感的なデザイン

一般的な認知のルール（メンタルモデル）を尊重し、言語の説明のみに頼らず、見た瞬間にカタチや役割がイメージできる視覚要素を活用し、直感的に伝わる設計を行います。

2. 誰にとっても、見やすく、親しみやすく、心地よい

UD（ユニバーサルデザイン）フォントの使用、色覚多様性に考慮した配色など、ユーザーの多様な文脈を配慮し、誰もが心地よく読み進められるデザインに。

3. 迷いなく理解を促す、一貫したトーン＆マナー

PDF版・HTML版共通で、デザインのルールを統一することで、ユーザーの「学習コスト」をなくし、安心感と信頼感を提供します。

4. 見て終わりではなく、やってみようを促すデザイン

欲しい情報にアクセスしやすいように情報整理を行い、平易な表現や視覚要素で理解を促しユーザーの能動的な行動をサポートします。



デザインイメージ

表紙は、3色のカラーで構成されたピクトグラムを用いて多様な人々が適切に情報を受け取れる世界を表現しています。また、誰にとってもわかりやすく、明るく明快な表現を目指します。



序章
「読むべき章」ナビマップ (役割別+アイコン)

3つの役割区分ごとに「必須章/参考章/読みなくてよい章」を一覧化。
オレンジ=主担当・精読、黄ドット=必須、白=参考。

章	読むべき章	読むべき章	読むべき章	読むべき章
第1章	必須	必須	必須	読むべきアイコン
第2章	必須	必須	参考	読むべきアイコン
第3章	必須	参考	参考	読むべきアイコン
第4章	必須	参考	必須	読むべきアイコン
第5章	主担当・精読	参考(体制)	参考(調達)	読むべきアイコン
第6章	参考(監修)	主担当・精読	参考	読むべきアイコン
第7章	参考(監修)	主担当・精読	参考	読むべきアイコン
第8章	必須	参考	必須	読むべきアイコン
第9章	必須	参考	参考	読むべきアイコン
付録A	自身の役割パート	自身の役割パート	自身の役割パート	読むべきアイコン
付録B	デジタル庁ガイドブック 参照マトリクス	参考	事業者への共有パート	読むべきアイコン
付録C	用語集・関連情報・ 改定研究等	参考	参考	読むべきアイコン

アイコン凡例 (重点度・第二種)

- 読むべきアイコン
- 読むべきアイコン
- 読むべきアイコン

二色用ナビ:
①表で役割別の必須/参考/読みなくてよい章を把握
②必要に応じて読み取るアイコンで重点度を把握
③必要に応じて読み取るアイコンで重点度を把握

注：上記のデザイン案は初案でのイメージとなります。今後構成員や監修者との協議を経て変更となる可能性があります。

ビジュアルデザインの工夫

1. 情報のメリハリをつけることで、心地よく読み進められる体験に
2. コントラスト比を確保した配色とアイコンなどの視覚要素でアイキャッチを作り、視線を誘導しながら直感的な理解を促す仕掛けに。
3. 表紙や中扉にユーザーとのフレンドリーなコミュニケーションを促すビジュアルを入れることで、固くなりすぎず親しみやすい印象に。
4. 色覚多様性に配慮した配色を確保した上で、注意事項は赤、強調は青など認識しやすいカラールールで初心者に寄り添ったデザインに。
5. 色だけに頼らず、形の違いやテキストで手がかりを示すことで、多様なユーザーに配慮する。

フォント選定の方針

日本語はUD(ユニバーサルデザイン)フォントから選定し、英数は日本語にあったものをPDF版、HTML版それぞれの環境に合わせて可読性・識別性の高いものを選定いたします。

1. UD（ユニバーサルデザイン）フォントの採用

アクセシビリティの観点から、年齢や障害の有無に関わらず、すべてのユーザーにとって読み間違えにくく可読性の高い書体を最優先で選定します。

2. 和英の調和と判読性

日本語と英数字が混在する文章でも、文字サイズや視覚的ウェイトの不揃いを解消し、自然でストレスのない組みを実現します。

3. ライセンスと運用性

PDF版は組み込み、HTML版はオープンライセンスのそれぞれの出力環境に合ったライセンス形態を採用します。

カラールール

本カラーシステムは、総務省のロゴで使用されているオレンジと信頼感のある青を基調とし、高い識別性と一貫性を持った配色を目指します。情報の意味や構造に沿って一貫したルールで色を使用することで、すべての利用者が視認・認識しやすくします。

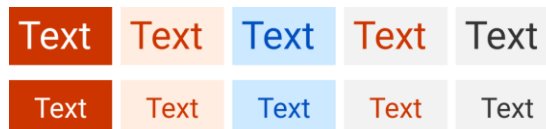
ただし、色覚特性の違いや閲覧環境に関わらず情報が正しく伝わるよう、情報伝達を色だけに依存しないことを原則とします。また、各カラーにはWCAG 2.1, 2.2において求められるコントラスト要件を満たす明度段階を設定し、背景色との十分なコントラスト比を確保して使用します。

▼カラーパレット

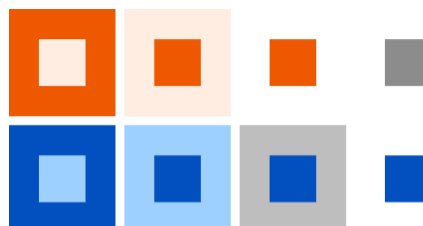


コントラスト比を確保できる明度の段階を用意します。

▼テキストのコントラスト



▼非テキストのコントラスト



使用可能なコントラスト例。

▼配色ルール

更新・制作	発注・検収の役割	初学者アイコン
必読	必読	📖
必読	参考	📖
参考	参考	⚠️
参考	必読	⚠️
参考（体制）	参考（調達）	📖 ✅

アイコンやパターンなどの視覚表現と組み合わせて、色だけに依存せず直感的に情報を識別できるようにルールを設定します。

色覚多様性への配慮

本ガイドラインは色覚多様性への保障として、CUD認証を取得する予定です。

理由としては、日本における色覚多様性（色覚特性・色弱）は決して珍しいものではなく、男性の約20人に1人（5%）、女性の約500人に1人（0.2%）が該当し、国内に300万人以上の方がいるとされています。ガイドラインを利用する職員や現場担当者の中にも、色覚多様性の方がいることが考えられるため、カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）による検証を行い、認証を取得することで多様性に配慮いたします。

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構及びCUD認証について

[カラーユニバーサルデザイン機構](#)（略称：CUDO）は、社会を人の色覚（色の感じ方）の多様性に対応、改善してゆくことで「人にやさしい社会づくり」をめざし2004年に設立したNPO法人です。



CUD検証は、印刷物、パッケージ、教材、玩具、製品類、施設・建築などについて、実際に使用される環境条件下において、色覚3タイプ以上（C型、P型、D型など）のCUD検証協力者が「カラーユニバーサルデザイン3つのポイント」を満たしているか否かを検証、評価いたします。カラーユニバーサルデザインに対応していると認証された製品等には、CUDマークを表示することができます。

読み上げ対応について

PDF版ではIn DesignとAcrobat Proを使い、文章構造に沿った読み上げ、画像のテキスト設計などを設定いたします。

HTML版では、WindowsではNVDA、MacOS/iOSではVoiceOverを用いて読み上げ検証を行います。

InDesign と Acrobat Proの組み合わせによるアクセシブルなPDFの作成方針

1. InDesignとAcrobat Proを使ったタグ付きPDFの作成

InDesign では、ドキュメントの構造的な階層とコンテンツの順序を指定します。階層構造（主見出し、第2見出し、小見出しなど）に基づいてスタイルを作成し、ドキュメント内の階層的な役割に従って適切に PDF を書き出すために必要な構造を作成します。

2. Acrobat Proによる「最終検証」

InDesignから書き出したPDFをAcrobat Proに読み込み、「アクセシビリティチェック」機能を使って自動検証します。また、読み上げツールを使用し、InDesignで構造化したタグ付きPDFの読み上げ順序等の検証を行います。

ビジュアルデザインに関する監修

インクルーシブデザインやユニバーサルデザインの知見に加え、ウェブアクセシビリティや当事者視点、読みやすさ・見やすさの実践的な知識、そして公的機関での実績を重視して以下2名を監修者とし、第三者による客観性を担保いたします。



間嶋 沙知氏

majima design

【専門分野】

ユニバーサルデザイン、情報デザイン、ウェブアクセシビリティ、色覚バリアフリー

【実績】

- 公益社団法人日本広報協会 広報アドバイザー
- 著書『見えにくい、読みにくい「困った！」を解決するデザイン』による、当事者視点・アクセシビリティ視点でのデザイン啓発
- 東京都写真美術館「ボランティアによる鑑賞サポート」の広報ツールのデザイン、高知県佐川町『佐川町立図書館「さくと」開館案内』のデザイン など

【経歴】

- 公式サイト（実績・プロフィール・著書・講演情報等）
- 著書『見えにくい、読みにくい「困った！」を解決するデザイン』
日本広報協会 [広報アドバイザー](#)
- 特定非営利活動法人
カラーユニバーサルデザイン機構
(CUDO) 賛助会員
- 読書バリアフリーサポーター



高田 裕美氏

株式会社モリサワ

【専門分野】

UD（ユニバーサルデザイン）フォント開発と啓蒙、情報デザイン、可読性・視認性を考えたレイアウト、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザイン、公的文書のUD化の啓発

【実績】

- UDデジタル教科書体・TBUD書体シリーズ 開発責任者
- 第23回「佐藤敬之輔賞」個人部門を受賞
- ディスレクシア・ロービジョン等 当事者のヒアリングによる読みやすさ・見やすさの研究と啓発
- UDフォントの活動が [STI for SDGs 優秀賞を受賞](#)
- 公的機関のガイドブック・リーフレットのアドバイザー
- 自治体・公的機関でのUDフォント導入・講演・執筆 等

【経歴】

- 著書『奇跡のフォント』 時事通信社
- 著書『みんなの「読める」をデザインしたい わたしは書体デザイナー』 Gakken
- 著書『見え方の困り事って こういうことだったのかドリル』 時事通信社
- メディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザー

